



アセビ

141 編は端書に 賛歌。ダビデの詩 とあります。この詩編は「夕べの祈り」の別称があります。ほかに、もう一つ「夕べの祈り」があります。ダビデの詩 の 4 編です。

両方ともに、助けを求めて祈っていますが、4編の最後には 平和のうちに身を横たえ、私は眠ります(4:9) という言葉がありますので、穏やかな雰囲気を感じられます。

それに反して、141 編は切迫した危機が感じられ、詩人が祈り続けている姿がうかがえます。それは冒頭に、主よ、わたしはあなたを呼びます。速やかにわたしに向かい／あなたを呼ぶ声に耳を傾けてください。(1) と、速やかに との言葉があるからです。祈っている瞬間にも、詩人はさしせまった苦難に苦しみ、悩んでいるように感じられます。

続いて捧げられる祈りの言葉 わたしの祈りを御前に立ち昇る香りとし／高く上げた手を／夕べの供え物としてお受けください。(2) に、神の御前で、恭しく、敬虔な思いで祈りを捧げている姿が描かれ、どんなに切迫していようとも、全身全霊の信仰の思いで、神に呼び求めていることが分かります。両手を伸ばして、天に広げて祈ることは最も真剣な祈りの姿勢であり、詩人はこの姿勢を 夕べの供え物 と述べていることから、夕べの祈りと呼ばれているのです。

2 連では、詩人の危機への対処としての自分の姿勢を告白しています。第一に 主よ、わたしの口に見張りを置き／唇の戸を守ってください。(3) と、言葉による失敗がないようにと祈っています。第二に わたしの心が悪に傾くのを許さないでください。(4a) と、悪への誘惑に陥らないようにと祈っています。悪を行う者らは甘い汁で誘うのでしょう。第三に 主に従う人がわたしを打ち／慈しみをもって戒めてくれますように。(5a) と、信仰による試練、訓練、諭しを求めています。誰でも欠けを責められ、諭されることは、恥ずかしく、苦しいことですが、詩人は敢えてそれによって主に従う道を歩むことになると覚悟しています。第四に祈りを捧げている時は わたしは油で頭を整えることもしません／彼らの悪のゆえに祈りをささげている間は。(5b) と言います。油 とは、オリーブ油、香油などを指し、神の前に立つために、清めの儀式として、身を整えるためのものですが、悪のゆえに祈るのであれば、その必要さえないという思いでしょう。

3 連は 悪を行う者ら について語ります。彼らの支配者がことごとく／岩の傍らに投げ落とされますように。(6a) とあります。一度は、悪を行う者 も詩人の呪いの言葉を聞いて わたしの言葉を聞いて喜んだのです。(6b) とあるように、悪 を憎んでいるはずなのですが、人間は罪深い存在です。

4 連は わたしの目をあなたに向け／あなたを避けどころとします。わたしの魂をうつろにしないでください。(8) と、主にのみ目を向け、悪を行う者ら の畏、落とし穴に陥らず、逆に 主に逆らう者が皆、主の網にかかり／わたしは免れることができますように。(10) と、助けを求めて祈っています。

『讚美歌 21』は夕べの祈りという主題で、16 世紀の英語詩編歌より、213「み神をたたえよ」をあげています。日本語訳は異なりますが輪唱が楽しめます。<https://cockrobin.blog.jp/archives/16102031.html>
ジュネーブ詩編歌は低音のピオラ・ダ・ガンバの演奏による小品です。

<https://www.youtube.com/watch?v=6mFYODIDMTE&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=141>